



化学繊維に変わり、環境負荷(CO₂発生量等)を軽減する、
新しい時代の天然繊維(カボック)油吸着材

オイルキャッチャー

流出油や水中の混入油はしばしば環境汚染の大きな社会問題として報じられ、その2次汚染は漁業や農業用水に多大な影響を及ぼし、自然破壊と生活サイクルの破壊まで広範囲に渡って災害を引おこします。さらに排水処理においても、あらゆる種類の混入した油脂分が処理を困難にしています。オイルキャッチャーは、日本国有特許による天然繊維高性能油吸着材で、あらゆる種類の油を素早く抜群の吸着力で処理し、油公害を防ぎ美しい環境を守ります。また、油吸着後の産廃処理においても化学繊維に比べて、環境に負担が少なく、地球環境を守ることに繋がります。

優れた吸着量!

鉱物油や動植物油に対し、自重の30倍以上の吸着量があります。従来の化学製品と比較し、3倍以上の能力を持っています。その結果、作業時間やゴミの量を大幅に軽減できます。



天然繊維のため焼却処理も簡単!

天然繊維を主体にした素材のため、化学繊維に比べて焼却時、少ないエネルギーかつ低温下で完全燃焼します。(燃焼温度は、化学繊維1000℃以上、カボック繊維600℃程度)このため炉の耐用年数が延び、溶融物も付着しません。

経済性抜群!

吸着力が優れているため、化学繊維に比べて少量で効果が上がり、コストパフォーマンスに優れています。

水中に沈まない!

カボック繊維は比重が0.05と軽く(化学繊維の比重は0.9)油を自重の30倍以上吸っても水面に浮かび、油が漏洩しない素材です。



抜群の吸着力!

オイルキャッチャー 従来製品

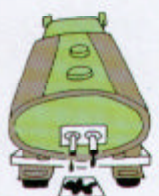


油が全て吸着されている
吸着できない油が残っている

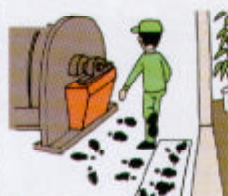
■オイルキャッチャーの使用例



1 油流出事故での回収作業



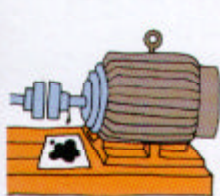
2 タンクローリーなどの漏油



3 工場等のマット代わり



4 厨房排水に

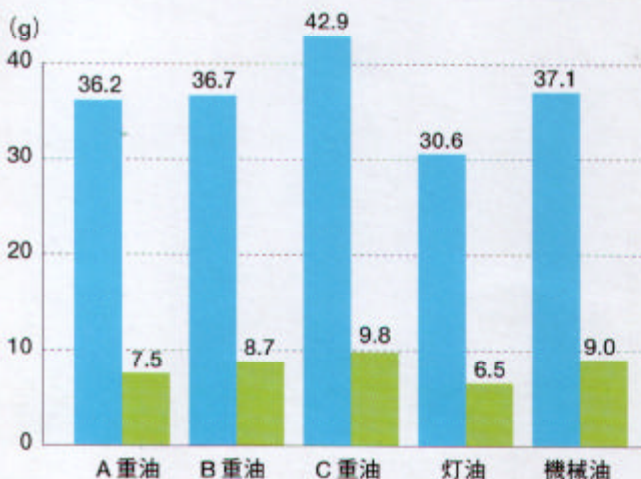


5 モーター・機械周りに



6 ろ過剤として

■油の種類別による吸着量の比較 (製品1gあたりの吸着量)



このほか、石油系の鉱物油、動物油、植物油にも、すぐれた効果を発揮します。

- 測定方法…20℃の油面に5分間浮かべ、さらに金網の上に5分間放置したあとで測定。
- 運輸省型式承認の油吸着材性能試験基準による規定…B重油で6g/g以上。
- 適切でない使用方法や水中に界面活性剤などが混入している場合には、吸着量が異なることがあります。

■天然繊維のカクイオイルキャッチャー ■ポリプロピレン系の他社製品